

歴史博物館 昔あそび

毎月第1日曜日 歴史博物館 紙芝居劇場

昔懐かしい自転車紙芝居です！いろいろな紙芝居を見ることができます。1日2回。公演終了後にはカタヌキのおまけもあります。各回が始まる前30分間(①13:00～ ②14:00～)に昔のおもちゃで遊べる時間を設けています。けん玉や丸とばしで遊んでから紙芝居をお楽しみください。

場所：歴史博物館 1階

時間：①13:30～ ②14:30～ (各回30分程度)

毎月第3日曜日 火打ち石体験 お手玉あそび

火打ち石と火打ち金を使った火おこし体験です！ろうそくに火をつけられるかな？その他に、お手玉あそびもやっています。お手玉のいろいろな技を磨いてみよう！

毎月第2土曜日 紋切りあそび 折り紙の金魚つり

型紙に折り紙をあてて切り抜くと、素敵な紋様ができていきます。できた紋様をファイルに貼ってお持ち帰りができます♪折り紙の金魚つりあそびもやっています。金魚以外の魚も…？

毎月第4土曜日 紋切りあそび

紙芝居劇場以外の昔のあそび体験については下記の場所と時間で実施いたします。

場所：歴史博物館 1階 時間：13:00～15:00

※都合により予告なく内容が変更・中止になる場合がございます。予めご了承ください。

季節の展示 「花のよそおい展」開催中！

桃の節供にちなみ、歴史博物館の館蔵資料を展示する季節の展示「花のよそおい」が今年も開催中です。

今回は当館所蔵のひな人形や「よそおい」に着目し、かつて日本髪を彩った櫛・かんざし・こうがい、晴れ着や浮世絵を展示します。

春の訪れを想わせるような華やかな展示になっておりますので、この機会にぜひご来館ください。

期間：令和7年2月22日(土)

～3月30日(日)

場所：歴史博物館1階 常設展示室



ご利用案内

【時間】 9:00～16:30

【駐車場】 一般車30台

【休館日】 月曜日(祝日の場合は翌日)

お体の不自由な方等

【入館】 無料、補助犬同伴可

の車両 各館1台あり

車いす各館1台あり

大型バスの利用不可

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、博物館および駐車場の利用時間が変更となる可能性があります。あらかじめご了承ください。



考古・歴史博物館だより

第73号
発行 令和7年3月



X
(旧Twitter)



Instagram

考古・歴史博物館
公式SNSで情報発信中！

縄文体験フェスティバル in 堀之内貝塚開催！

考古・歴史博物館では、3月に「縄文フェスティバルin堀之内貝塚」を開催予定です。

例年ご好評いただいている、摩擦式の火おこし体験、縄文服の試着体験や弓矢を射る体験など古代人の生活を体験できる貴重な機会となっています。

また、その他にも貝塚のガイドツアーや組みひも体験、火打ち石を使った火おこしに紋切りあそびなどのさまざまな体験を実施予定です。キッチンカー等も出店予定ですのでぜひご利用ください。

来場に際しての事前申し込みは不要ですが、体験によっては一部有料のがあります。

※内容は都合により変更になることがあります。

期間：令和7年3月23日(日)

場所：考古博物館・歴史博物館
・堀之内貝塚公園

時間：10:00～14:00

※当日は駐車場の混雑が予想されるため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

※雨天時は縮小開催、荒天時は中止となります。

申込不要 ※先着順・一部有料



【当館利用者の皆様へのお願い】

体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。
見学の際、展示ケース等の館内の物には触れないようにお願いします。

市川考古博物館

〒272-0837

市川市堀之内2-26-1

☎ 047-373-2202

市川歴史博物館

〒272-0837

市川市堀之内2-27-1

☎ 047-373-6351

古代下総国の国・郡・里—下総国の範囲15

前回(70号)で造船に関連して、『常陸国風土記』香島郡条に記される古老の言い伝えにふれた。その内容は、天の大神が鹿島神宮の神官である中臣氏の祖先に造船を命じて造船させたが、大神は船を海や丘へ自在おいたため、それを畏(おそ)れた神官の祖先は、長さ2丈(約6 m)ほどの船3艘を大神に奉った、である。

よく意味が分からず、この言い伝えは以前から心に引っかかっていたが、今回の執筆にあたり、かつて訪れた銚子港の千人塚を思い出して得心した。千人塚は海難事故で亡くなった漁師さんを祀った慰霊碑で、現利根川河口付近は海の難所といわれた。『銚子漁港整備史』(千葉県銚子漁港事務所編2004年)によると、海難の原因は利根川河口で発生する「三角波」であるという。河口で北から北東の風が吹き続いた場合、外洋から来るうねりと利根川の流れがぶつかり、非常に高い三角波が立つ。河口に

出入港する船がこの波を受け、転覆する事故が多発したのだそうだ。

この海難のリスクを避けて、香取の海と太平洋の水上ルートを結ぶには、鹿島神宮のある台地で荷もしくは舟そのものを陸揚げして太平洋側に運べばよい。鹿島神宮周辺の地形は北浦側から深い谷が入り、太平洋側には台地と砂堆の間に三角州が残る。三角州は河川の河口があった名残で、後の堆積で砂堆が河口を塞いでしまったのだろう。この河口が太平洋側の港(津)になっていたのではあるまいか。「下津」という地名が残るのも、その名残であろう。『常陸国風土記』の言い伝えに、このような背景を考えると、鹿島神宮と水運の結ぶつきがより鮮明になる。

下総国の国境から話がそれたが、前回の続きとして書き残しておくことにした。

(考古博物館学芸員 山路 直充)



【図】 鹿島神宮周辺の地形
地図：数値地図 25000 (国土地理院ホームページ)

市川に残る国府台合戦関係伝説② 正木内膳亮時総～内膳？大膳？大炊介？～

前回、里見弘次のお話をしましたが、今回は正木内膳についての伝説をご紹介します。正木氏は安房において里見氏に次ぐ力を持っていた一族です。国府台合戦で里見方の将として参加しています。

国道14号の木下街道入り口左手にある高石神社に正木内膳創建の伝説があります。江戸期作成の『江戸名所図会』では高石明神社と称され、「当社は里見安房守義弘の弟南総大多喜城主正木内膳亮時総の墳墓なり」と紹介しています。また、国分寺から北東に行ったあたりに内膳山と呼ばれる場所があり、正木内膳の陣営の地と伝わります。しかし、史実に正木内膳亮時総という人物は存在しません。内膳ではなく、大膳の誤りとも考えられます。

では正木大膳とは誰なのか。国府台合戦の頃に大膳を名乗った人物に正木時茂がいますが、第二次国府台合戦

前に亡くなっています。そこで考えられるのは、時茂の子、信茂です。義堯の娘を妻に迎えているため、前述の弟とは義弟という意味でしょう。信茂は第二次合戦で戦死し、伝説では亡骸が高石神に葬られたとしています。一方、社伝に「正木内膳がめずらしい石を祀ったのが始まりである」ともあります。

では信茂が内膳(大膳)と名乗ったかという、そのような記録はありません。一方、北条康成(のちの繁氏)感状に「正木大炊介討捕」とあり、この大炊介が信茂と考えられます。国府台合戦を記した軍記物では槍の大膳の活躍が描かれますが、これも時茂の没年を考えるに信茂のことを指しているのでしょうか。25歳という若さで亡くなった信茂と、里見義堯・義弘二代にわたって仕えた父、時茂が混同したものが高石神社の伝説なのかもしれません。

(歴史博物館学芸員 山岸 未来)



【写真】 木下街道から見た高石神社